



2012年2月 第10巻第2号

かく語りき—聖人の言葉

「要は、まさに母親がわが子を愛するように、貞淑な妻が夫を愛するように、世俗の男が富を愛するように、神を愛することである。これら三つの愛の力、これら三つの魅力を合わせて一つにし、それを全部神に向けよ。そうすればお前は、間違いなく彼を見るだろう。」
(シュリー・ラーマクリシュナ)

「心は、願望の対象を手にしても決して満たされることはない。ちょうど、穴の空いた壺にいくら水を入れてもいっぱいにならないのと同じだ。」
(シュリー・チャイタニヤ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・1月の返子例会 第150回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会
- ・スワミー・メダサーナンダ、フィリピンセンターを訪問

- ・御岳山夏季リトリート
スワミー・メダサーナンダによる講話『ポジティブな生き方』
第2部 (全3部)
- ・インド巡礼の旅
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

今月の予定

- ・生誕日・
ゴウランガ・マハプラブ
(チャイタニヤ) 3月8日(木)
スワミー・ヨガーナンダ
3月11日(日)

2012年1月の返子例会

第150回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会

2012年1月15日(日)、日本ヴェーダーンタ協会では第150回スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会を開催しました。午前6時、マンガラアラティ、聖句朗唱、バジャン、瞑想で祝賀会が始まりました。午前7時45分、早朝プログラムの参加者に朝食が

振る舞われました。その後少しずつ人が到着して参加者が増えていき、一部の方にはプージャ等の準備を手伝っていただきました。



午前 10 時 45 分、瞑想、プージャ、供物の奉獻の後、花の献上（プシュパンジャリ）、聖句朗唱を全員で行い、午後 1 時に昼食のプラサードをいただきました。



午後 2 時 45 分からの午後のプログラムでは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの著書を日本語と英語で輪読し、スワミー・メダサーナンダがスワミージについての物語を話しました。通訳は佐々木陽子氏でした。続いて、賛歌と「ダルシャナム」のメンバーに

よるシタール演奏が披露され、瞑想をした後、皆でお茶をいただき、一日のプログラムが終了しました。



スワミー・メダサーナンダ、2012 年 1 月にフィリピンセンターを訪問 エンリコ・コロンボ氏寄稿

スワミー・メダサーナンダは、1 月 18 日（水）の午後早くにマニラ空港に到着され、お迎えに上がった信者たちと共に Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines Center にお見えになりました。

軽い食事と休憩を取られた後スワミーは、個人的な助言を求めている人々とお話しをされました。午後 7 時にセンターの礼拝室でアラティ（夕拝）が執り行われ、続いて『シュリー・ラーマクリシュナの福音』の朗読とスワミーの解説がありました。

その後、センターに集まったおよそ 15 人の信者・友人たちとスワミーに

夕食が振る舞われました。この食事だけでなくスワーミーの滞在中は、インド人の女性信者数人が料理を担当し、スワーミーや他の信者・友人たちのためにおいしくて健康によい食事を準備しました。一日が終わり、スワーミーは、センターの僧侶用宿舎に宿泊されました。

翌 1 月 19 日、朝の礼拝で聖句朗唱、『バガヴァッド・ギーター』の朗読とスワーミーの解説、瞑想を行い、朝食を取りました。センターの周りを散歩した後、スワーミーは信者たちと話をされ、翌日以降の予定に向けて準備を始められました。

その間に、数名の信者が東京から来た 2 人の日本人信者を迎えに空港に行き、初めに、滞在中の宿を提供するインド人信者たちの家に、次にセンターへと案内しました。センターでスワーミーに再会してご挨拶ができた日本の方々嬉しそうでした。

アラティ、『福音』の朗読と解説の後、夕食を食べました。翌日は、朝の聖句朗唱、『福音』の朗読と解説、瞑想を行って、皆でおいしい朝食をいただいた後、スワーミーは 2 人の日本人信者、2 人のイタリア人信者と共に空港に向かい、格安フライトでセブ島に飛びました。



わずか 1 時間で飛行機はセブ空港に着陸し、そこで日本人信者とイタリア人信者各 1 名がスワーミーの一行に合流しました。昼食は、空港に程近い地元のレストランで取りました。その後、大きな車 1 台に皆で乗って、セブのあちこちを見学しました。

見学は、マゼラン・クロスと、「セブアノス」(セブの住民)が信仰の拠り所にするサントニーニョ教会(カトリック教会)という、セブきっての見どころから始まりました。ここで、セブのシンボルとして崇められているこの有名な教会について少し説明をします。

スペインに雇われたポルトガル人の艦隊指揮官マゼランは、1521 年、スペイン王とカトリック教会の命でフィリピンを征服しようとしたが、結局、セブの近くのマクタン島での戦いに破れ地元の部族長ラプラプに殺されました。

しかし、この戦いで命を落とす前に、

マゼランは初めて上陸した地（現在のセブ市）にキリスト教の十字架を建てました。また、自分に敵意を持っていなかった別の部族長の妻に、木製の小さなサントニーニョ（「ホーリーチャイルド」の意）の像を寄付しました。マゼランが敗北した後も、スペインはさらに4隻の艦隊を送り込み、フィリピンを征服してキリスト教に改宗させようとしたのですが、すべて地元の部族たちに打ち負かされました。

数年後、ついに新しいスペイン艦隊がメキシコから出航しました。ミゲル・ロペス・デ・レガスピが軍事作戦を担い、聖アウグスチノ修道会のアンドレス・デ・ウルダネータ修道士がフィリピンのキリスト教改宗の指揮をとることになっていました。この遠征隊は1565年にセブに到着し、艦隊の大砲による砲撃でかろうじてフィリピンの先住民を征服しました。爆撃を受けたセブ村の住民は村を捨て、安全を求めて付近の山に逃げました。

そして、スペイン人の乗組員が上陸し、残った者がいないか家々を一軒ずつ調べ回っている時に、マゼランがおよそ30年前に残したサントニーニョの小さな像を見つけたのです。像は、奇跡的に無傷な状態でした。ウルダネータ修道士は、マゼランが最初に上陸してキリスト教の十字架を建てた場所に近い所に、修道院と教会を建設してサント

ニーニョの聖像を安置することになりました。

教会は竹や木材など現地で調達できる資材を使って建てられましたが、後に火事で焼失しました。次も同様の資材で建て直されましたが、またもや火事に遭い灰と化しました。3度目は石で建てられましたが、数年後に崩れてしまいました。現在の教会は、その約2世紀後、1740年頃に建てられました。こうした出来事に遭いながらも、サントニーニョの聖像は無傷のままでした。セブアノスは彼らのサントニーニョは靈験あらたかな力を持っていると信じており、強く信仰しています。

スワーミー・メダサーナンダが教会に到着したのは、シヌログ祭（毎年何万人もの信者たちが集い9日間サントニーニョを祝うお祭り）の最終日でした。そのため大変な人だかりで、スワーミー一行は、主祭壇脇の、サントニーニョの聖像が祀られている礼拝堂に入ることができませんでした。しかしスワーミーは、教会内の数メートル離れた場所から聖像を見ることができ、教会に来て良かった、サントニーニョを取り巻く雰囲気は大いに堪能したと仰いました。

そこから一行は、セブ市を囲む丘陵地帯にあるマウンテンビューという所に移動しました。ここは同市や付近のマ

クタン島を一望のもとに見下ろすことができ、生い茂った草木の陰や山のそよ風の下でひととき暑さをしのげます。

ちょうど日没前にスワミー一行は海辺のホテルにチェックインし、海岸に座って聖句の朗唱と瞑想をしました。夕闇の訪れが安らぎに満ちた雰囲気を醸し出しました。夕食は近くにあるこぢんまりした屋外のフィリピン料理店で取りましたが、結局、激しい通り雨のために急いでホテルに戻らなければなりませんでした。次の朝、スワミー・メダサーナンダと2人の日本人女性信者は、少しの間、近くに住むイタリア人信者たちの家や家族を訪問しました。



その後、スワミー一行は皆で船に乗り、小さな島に向け素敵な小旅行へ出ました。到着後、スワミーは島内にある海辺のリゾート地への招待を断り、代わりに小さな漁村まで歩きました。村では地元の人々から歓待され、一行が小学校に向かうと、すぐさま子供たちや地元の人たちの小さな行列ができ

ました（スワミーは現地の教会か礼拝堂を訪れたかったのですが、村民たちには教会を維持するだけの十分な財力がないたためそのようなものはない、と言われました）。小学校では、スワミーは子供たちを並ばせて、包み紙を地面に捨てないようにと諭しながらキャンディを配られました。また、学校に寄付もしました。そして、一行は船を待たせている所まで歩いて戻りました。

輝く太陽の下、船に約30分乗って、スワミーと一行はセブ島の出発点に戻りました。そこからこぢんまりした中華料理店に行って簡単な昼食を済ませ、空港に向かいマニラへと飛行機で戻りました。

ちょうどアラティの時刻にマニラセンターに全員戻り、朗読、瞑想をしました。夕食を取り、とても忙しい一日が幕を閉じました。しかし、翌1月22日（日）にも、予定の詰まった大忙しの一日が待っていました。





朝拝の後、スワミーは招待を受けていた信者の家に行き、他の信者数名と共に素敵な朝食をごちそうになりました。午前10時にセンターでスワミーは十数人の信者たちと会われ、フィリピンセンターの活動や予定について話し合われました。

スワミーはセンターで数名の信者と共に昼食を取られると、午後の公開講話の前に少し休憩されました。午後5時、『Positive Living (積極的な生き方)』の講話が始まり、国際色豊かなおよそ35人の出席者がありました。フィリピン人、インド人に加え、日本人信者2人、シンガポール人3人、フィリピン在住のレバノン人1人、イタリア人信者3人が参加しました。講話の中で、スワミーは人生の実践的な側面についていくつか触れられ、信者たちは大きな関心を持って拝聴しました。

短い休憩を取り茶菓が振る舞われた後、少年少女の聖歌隊が賛歌をタガログ語と英語で数曲歌いました。聖歌隊

のメンバーは後で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの有名な言葉の載った小冊子をスワミー・メダサーナンダから一人一人いただきました。続いて、質疑応答が大変活発に行われ、公開プログラムは終了しました。スワミーと信者約20人にセンターで夕食が供されました。

翌1月23日(月)、スワミー・メダサーナンダと2人の日本人女性信者はマニラを出発し、日本に戻りました。

(フィリピンセンターの詳細については www.vedanta-philippines.org をご覧ください。)

御岳山夏季リトリート スワミー・メダサーナンダによる講話

『ポジティブな生き方』

第2部 (全3部) 田辺美和子氏寄稿

ポジティブな思考、ネガティブな思考とバガヴァッド・ギーター

さて、どのように生きるかは、どのように思考するかに影響されます。ポジティブな生き方はポジティブな考え方に、ネガティブな生き方はネガティブな考え方に影響されるのです。では二者を比較して検討していきます。

【ネガティブな考え方の特徴】

・恐れ、ストレス、苦しみ、心配がたくさんある。

- ・問題が起こったとき、すぐに緊張、神経質、逃げたくなる。
- ・過去の問題や過ちから何も学ばず、同じ過ちを繰り返す。
- ・心が感情的、衝動的すぎる。
- ・何も考えずにしゃべる。何も考えずに仕事をする。問題が出てきてから考えこむ。
- ・考えが狭く、利己的。ひとのためにもあるが、見返りを期待している。
- ・他人の欠点をいつも見ている。
- ・いつも過去と未来のことばかり考え、私たちが唯一コントロールできる、「現在、今」を重視しない。
- ・味わう、聞く、見るなどの感覚からくる快感を求める。感覚の自由が欲しい。
- ・現代病——パソコン、インターネット、携帯電話などをどれくらい、どうして、どのように使うかを吟味せずを使い、便利なようで実は翻弄されている。欲望のままに使い、社会のルールや自分の健康を害していることに気が付かない。

【ポジティブな考え方の特徴】

- ・恐れ、ストレスがない、心は静か。
- ・問題のとき、立ち向かう、逃げたくない。
- ・問題から学ぶ。同じ過ちを繰り返さない。
- ・感情はあるが、それをコントロールできる。

- ・心が広い。自己中心的でない。
- ・他人の欠点ではなく、性質を見ている。自分の欠点を自覚している。
- ・「現在、今、この瞬間」に集中している。
- ・感覚から自由である。感覚を識別し、コントロールできる。
- ・便利な物や機械を吟味して使う。

このように、ネガティブな考えはネガティブな生き方（すなわち、束縛、不調和、弱い、恐れ、苦しみ、悲しみ。その結果、くらい、鈍い状態、動物に近い状態、人生が無駄、もったいない。）、ポジティブな考え方はポジティブな生き方（自由、知識、恐れがない、調和、しあわせ、至福、満足した人生。）へつながっていくのです。

ところで、バガヴァッド・ギーターでは三つの質（グナ）【サットワ（純粋な質）・ラジャス（衝動的な質）・タマス（鈍い質）】の違いについて具体的に語られています。サットワ的性質とポジティブな生き方、ラジャス、タマスの性質とネガティブな生き方は、それぞれ同一なものです。ギーターを読み三者の違いが理解できれば、より、ポジティブな生き方が明確になるでしょう。まるでギーターの中にポジティブな生き方のガイドスマニュアルがあるかのようです。

具体的に節を挙げると、18章 20～22

節（知識（ギヤナ）についての三つの質）、同 23～25（行為（カルマ）についての）、同 26～28（行為者についての）、同 30～32（知性についての）、同 33～35（決意についての）、同 36～39（幸福・喜びについての）。

この中でもサットワ的幸福・喜びについての助言は重要です。それは、始めは毒薬のようだが終わりは甘露となる（37 節）、そしてそれは長い修練（アビヤーサ）によってのみ獲得することができる（36 節）というものです。本当の幸福は、しぜんに得られるものでも、一日の瞑想で叶うものでもなく、毎日の修練が必要です。そしてその修練は、おもしろくなくて大変で「毒」のようかもしれません。ですが続けてください。最後には甘露（ネクター）となります。「瞑想をしたくない時、欲望に負けそうになった時には、この節を思い出して唱えてください」とスワミーはおっしゃいました。

ちなみにラジャス的な幸福・喜びは全くその反対で、最初は甘い、最後は毒、（38 節）というものです。一時的な結果ばかりを追い求めると、最終的な目的にはなかなかたどりつけません。時には結果が出ず、落胆することもあるでしょう。一方、ポジティブな生き方は一時的な良い結果に惑わされません。最終的な目標を見えています。ひたすら最終的な目的を達成しようとするので

す。

さてここで、なぜ私たちは問題が起こった時、ついつい否定的な考えに陥ってしまうのか、というごく自然な疑問が出てきます。このことについても語られました。

その状態になってしまう原因は、私たちの内にある、タマスの性質の影響であるということでした。人間を含めすべてのものには三つ（トリ）の（グ）質（ナ）があり、それぞれバランスが違います。が、ほとんどの人はタマスの割合が勝っている。ネガティブの原因であるタマスの質を減らしていき心にサットワを育てる。原因から変えていくことが大事、とおっしゃいました。

ポジティブに生きるための学習

ポジティブに生きるには、そのエピソードや実践が載っている本や言葉を勉強することが大事だということです。これらは『Chicken soup for the soul（心のための健康スープ）』。読んで、アンダーラインをして、書きこんで、勉強して下さい。

あふれるほど本がある中、選択眼がとても重要とのことで、これこそ、というスワミーお薦めの本を三冊紹介いただきました。

・『How To Stop Worrying And Start

Living』 (Dale Carnegie) (『道は開ける』 デール・カーネギー)

・『You Can If You Think You Can』 (Norman Vincent Peale)

・『Message Of Swami Vivekananda』 (スワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージ)

また、自分の心に深く響き鼓舞されるような言葉 (インスパイアリング・メッセージ) を選び、書き、見て、記憶し、マントラのように唱え続けることも、とても良い実践方法です。言葉には力 (パワー) があります。良い言葉には良い力があります。たった一つ良い言葉を心に刻みつけるだけで、良い変化が現れます。

以下はスワミーお薦めのメッセージです。

・『にんげんだもの』 相田みつを

・中村天風さんの著書

・松下幸之助さんの著書とメッセージ
「成功するためには成功するまで続けることである」

・バガヴァッド・ギーター6章5~6節。
「心と感覚を制御すれば自分は自分の親友となり、制御できなければ仇敵となる」 (意識)

・同18章37~38節 (前出)。これは欲望に負けそうになったとき、大事な言葉です。

・「できると思えばあなたはできる」 (You can if you think you can.)

・「この瞬間をよく生きる」 (Be in this moment way.)

・「希望とは生きていること。絶望とは死んでいること」 (Hope is life, despair is death.)

・スワミー・ヴィヴェーカーナンダの言葉

「Strength is life, weakness is death.」 (力は生きていること、弱いとは死んでいること)

「All power is in you, manifest it.」 (すべての力はあなたの中にある。現れてください)

「Faith in you and faith in God, this is the secret of success.」 (自分自身と神への信仰、これこそすべての成功の秘訣である)

・「逃げないで立ち向かえ！」

以下のように人間に四種類あります。

① 自己成長について何も考えることなく、ただ人生の川に流されるがままの人。(世間のほとんどの人)

② 本を読み勉強もするが、頭でっかちな人。

③ 瞑想や霊性の修業をするが、だんだんとやる気が無くなり三日坊主の人。

④ 在家の理想的な生き方をする人。すなわち世俗的な成長 (今生を良く生きたい) と霊的な成長 (悟りたい) の両者を追求する、ポジティブな生き方の人。

これらの中で私たちはどこに入のでしょうか。ときどき③のようではないでしょうか。そんな私たちのために、先ほど挙げた本やメッセージがとても有用となるのです。



编者注：以上が第2部です。第3部（最終回）は、次号以降のニュースレターでご紹介します。

インド巡礼の旅 田辺美和子氏寄稿

今年9月28日、スワミー・メダサーナンダ・マハーラージと共に、インド巡礼の旅に参加いたしましたのでご報告いたします。昼12時、エアインディアにて成田空港をニューデリーへと出発しました。男性1名・女性7名（うち海外旅行が初めての者1名、マハーラージとのインド巡礼が初めての者7名）計8名の一行が、今回マハーラージと共にインドの聖地を巡る恩恵に恵まれたのです。

同日の17時、新しいインドの玄関口インディラ・ガンディー国際空港に到着後、ニューデリーのラーマクリシュナミッションへ。着いてみるとそれは Ramakrishna Ashram Marg という地下鉄

駅そばで、駅構内にはシュリー・ラーマクリシュナの壁画が！広場にはヴィヴェーカーナンダ像が！私たちは嬉しくなりました。と同時に、生活に靈性の師が溶け込むインドが羨ましくもなりました。ここニューデリーではマハーラージはアシュラムに、私たちは近くのホテルに滞在いたしました。



翌日は聖地ベナレスへ飛び、ガンジス川で船に乗り、あちこちの寺院参拝に巡りました。ヴィシュヌ寺院を参拝したあと、マザーが「ここを参拝することはヒマラヤのケダールを参拝することと同じである」とおっしゃったケダルナート寺院をお参りし、翌早朝にはベナレスの中心でありシヴァ神信仰の中心、ヴィシュワナート（宇宙の守り主）寺院とアンナプルナ（シヴァの妃、食物の神）寺院を、信者たちの熱気のなか参拝しました。ヒンドゥ教徒以外入れない場所にもマハーラージとガイドさんのおかげで参ることができ、アンナプルナ女神に伏したときにはその甘いエネルギーに圧倒されてしまいました。午後にはスワミー・ヴィヴェーカーナンダと猿の逸話が残るドゥルガー寺院、中世の偉大な宗教詩人ト

ウルシーダースが修業したハヌマーン寺（ラーマ信仰の寺）、広大な敷地で幅広い研究を行うベナレスヒンドゥ大学と構内のシヴァ寺院を参拝しました。



次の日、ベナレスから小さなバスに乗り、高速道路で約 6 時間、ブッダガヤに参りました。ここはブッダの悟りの地、仏教徒にとって最高の聖地で、マハーラージも初訪問という事でした。私たちはかつて衰弱したブッダに粥（ライス）を捧げたというスジャータ寺を参拝後、ブッダが大悟した菩提樹がのこるマハーボディー寺院へ。52 メートルもの尖塔内部には金箔の仏座像が安置されており、多くの西洋人や諸外国の熱心な仏教徒とともに参拝しました。ここにはブッダを師と仰ぐめくるめくエネルギーが集約されていると感じましたが、仏陀はクリシュナの化身であり、その意味でヒンドゥ教徒も参拝するのですとマハーラージもおっしゃっていました。ここではヒンドゥ教と仏教両方の伝統的な方法で毎日儀式を行っているそうです。

翌日はガヤーのヴィシュヌ寺院へ。ここはかつてシュリー・ラーマクリシュ

ナのお父さんが、夢でこの寺院で厚い礼拝を捧げたあと、神様から「お前の息子として生まれるだろう」とのお告げを受けた場所です。クディラムお父さんの神への信仰はどれほどだったのでしょうか！

10 月 3 日、一旦ベナレスのアシュラムに戻り、いよいよ飛行機でコルカタへ。ラーマクリシュナの福音などで書かれている本の中の世界を体験できるのです。やっとここまで来られた、という思いでした。



マハーラージに導かれベール僧院境内に入ると、それはただならぬ引力を感じました。目に見える現実世界の理屈だけでは到底理解できない偉大な力……。建立して百年少々のこの僧院がこれほどまでのパワーを持つの

か！もう、これはタクール（シュリー・ラーマクリシュナ）の現れ以外何ものでもない、と確信しました。スワミー・ヴィヴェーカーナンダのお部屋の中を特別に見せていただいたあと、マハーラージは教えて下さいました、「タクールは白い肌、黄色い肌の人々も参拝にやってくるだろう」と預言なさっていました。今後ますますそのようなことが起こるのだと感じました。ここベルール僧院では、私たちは幸運にもプレジデント・マハーラージにご挨拶することができました。

2日目はドッキネシュワルをはじめとしてタクールに縁がある場所を巡りました。コシポール・ガーデン、ウドヴォーダンのマザーズハウス、ヴィヴェーカーナンダの生家、バララーム・ボースの家、Mの家、ギリシュ・ゴージュの家。特にコシポール・ガーデンはタクールの亡くなった場所なのに悲しいというよりうっとりとし、長く居たくなりました。Mさんの家には偶然ひ孫さんがおいででマハーラージに再会しとても嬉しそうでした。Mさんの礼拝室はタクールへの愛がいっぱいこもっていて涙が落ちました。こちらでは、シュリー・ラーマクリシュナにヴェーダーンタを教えたトータプリーの写真を初めて見ました。どの場所でも宝石のような体験をしました。

ベルール僧院から車で約3時間、マザ

一の生誕地ジャイラームバーティーとタクールの生誕地カマルプクルにも行き、ベルールとはまた違った味わいを感じてきました。ジャイラームバーティーはマザーの慈悲深さに包まれていました。そこでは彼女の偉大さがなまで生きていました。と同時にマザーをとおしてタクールは現れている、マザーとタクールは一つなんだと感じました。カマルプクルではタクールの実家の守り神、主ラグヴィールやシータラーの礼拝を目の当たりにでき本当に嬉しく、ここまで連れてきていただいたありがたさを感じました。

また、私たちはマハーラージのご実家にも伺いました。おうちでは親戚の方やご近所の方々がたくさん集まられてお昼の準備をし、マハーラージの到着を待っておいででした。くつろぎやすく落ち着いた感じの部屋には、マハーラージや亡きお父様お母様のお写真が大事そうに掲げられていました。ホメオパシーの権威でいらしたお父様は、人の為に何かをなささいという教育をなさり、お母様はクリシュナの信者でいらしたそうです。皆さまのご親切とも相まって、愛のシャワーを浴びている気分でした。心地よい緑と池の裏庭には礼拝堂があり、神様とともにマハーラージのグルのお写真が飾られていて皆も頭を垂れました。御馳走していただいた昼食はさて何十品あったでしょうか！この幸せを仲間の一人は「レ

ストランはレストランの味。アシュラムはアシュラムのおいしさ。ここは家庭の愛情がいっぱい詰まったおいしさ。私は今日のお料理が今までで一番おいしかった！」。



今回の巡礼では、特にベンガル地方においては一年で最も大きな祭事、4日間にもわたるドゥルガープージャを体験することができました。毎年新たに作られる土で出来たドゥルガー女神の神殿は想像以上に大きく、ドゥルガーは強く美しく見えました。女神を大きな扇であおぎながら時には3人の神職により、プージャは毎日厳かに壮大に行われました。最高潮は女神の神殿をガンジス川に流す最終日です。その日、ガンジス川の渡し舟には長蛇の列ができ、僧院はたくさんの人々で埋め尽くされました。この祭事が心から嬉しいのだという雰囲気がいっぱいでした。私たちはマハーラージのご配慮でスワミー席のすぐ隣で拝見することができました。固唾をのむ空気のなか花火が打ち上げられマザー・ドゥルガーが岸边にやってくるとブラフマチャーリもスワミーも歌い、踊り、跳ね、ドラムを叩き、本当に嬉しそう！母なる神への熱狂ぶりを強烈に目の当たりに

しました。

12日間の巡礼の旅で紙面に書ききれないほどの体験や出会いをしました。体調を崩された方も数人いましたが、それにより私たちは慈しみ合う機会を与えられました。「新しい家族が増えて嬉しい」と病から立ち直った方がおっしゃったときには、皆胸がいっぱいになりました。マハーラージはすべての計画をお立てになり、準備して下さり、そして私たちがより豊かな経験が出来るようにと様々なお取り計らいをしてくださいました。体調を崩した者のケアはもちろん次の旅に出る者たちの手配や心配まで……。家族以上の愛を感じました。心の底から感謝しております。今回さまざまな寺院でさまざまな礼拝をするインドを見ました。私たちがニューデリーで見た地下鉄の壁画には、さまざまな宗教寺院の前に立つシュリー・ラーマクリシュナと、少し控えた偉大な宗教の始祖たちが描かれておりました。「As many faiths, so many paths」……。さまざまな経験が、各自の成長の法則に即って、神へ真理へと導くのだと感じた旅でした。

忘れられない物語

宝石

昔々、ある宮殿に年とった王様が住んでおりました。宮殿の本殿には金のテ

ーブルがしつらえてあり、その真ん中には大きくて見事な宝石が輝いていました。宝石は、王様が一日を過ごすごとに、どんどんまばゆい光を放つようになってきました。

ある日、泥棒が宝石を盗み、宮殿から走り去って森の中に隠れました。そして、大喜びでその宝石をじっと見つめたところ、驚いたことに、宝石の中に王様の姿が現れたではありませんか。

「私はお礼を言いに来たのだ」と王様は言いました。「お前のおかげで私は世俗への執着から解放された。宝石を我が物にしたときに自由になったと思ったが、後になって、純粋な心で人に宝石を譲って初めて私は自由になれるのだと気づいたのだ。」

「今までの人生で毎日宝石を磨いてきて、ついに今日この日を迎えた。宝石がみごとに美しくなっておまえがそれを盗んだ。私はそれをおまえに譲り、自由になった。」

「おまえが手にしている宝石は『知』の宝石だ。それを隠したり、持っていることを人にほのめかしたり、見栄を張って身につけたりしても、美しさを増すことはできない。他人がその美しさを意識したときに美しくなるのだ。美しさを与えるものを敬いなさい。」

(Thaddeus Golas 作)

今月の思想

我々がここに在るのは、それぞれを別個の存在と見なす幻想から目覚めるためである。

(Thich Nhat Hanh)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp